9. 湾クラブ加盟5周年記念行事（10/19）

開催概要

15th World Congress in TOYAMA
The Most Beautiful Bays in the World
October 16-20, 2019

日時:　10月19日(土)　10:00～11:45
会場:　富山国際会議場 3F「メインホール」
言語:　英語、仏語、日本語(日英、日仏の同時通訳あり)、手話通訳
参加者数:361名

プログラム

開会挨拶	富山県知事 石井 隆一
祝辞	世界で最も美しい湾クラブ理事長 ミッシェル・ブジョルド氏
タモリさんビデオメッセージ上映	
記念講演	公益財団法人環日本海環境協力センター(NPEC)理事長 鈴木 基之氏 テーマ「美しい海に向けて～プラスチックと窒素の管理を」
記念対談(トークショー)	怪魚ハンター 小塚 拓矢氏、魚津水族館館長 稲村　修氏 テーマ「怪魚ハンター小塚が語る!リュウグウノツカイ&ダイオウイカは釣れるのか?」
閉会	

講師・出演者の紹介

〔記念講演〕

公益財団法人環日本海環境協力センター(NPEC)理事長　鈴木 基之氏

東京大学名誉教授。2007年から環日本海環境協力センター理事長。日本UNEP協会代表理事。1998年から2003年まで国際連合大学副学長として「環境と開発」の研究プログラム部門を統括し、多様な国際プロジェクトの主導に尽力。
また、中央環境審議会会長として、環境基本法の改正に関わるなど、持続可能な社会の構築を目指した政策立案に携わる。日本水環境学会功労賞・学術賞・学会賞、環境大臣表彰(環境保全功労者)など受賞多数。

〔記念対談(トークショー)〕

怪魚ハンター 小塚 拓矢氏

1985年、富山県高岡市出身。人呼んで「怪魚ハンター」。東北大学理学部でハゼを研究し、同大大学院修士課程を修了。怪魚(巨大淡水魚)を追いかけ世界54カ国・1307日(計61回)を釣り歩く。

魚津水族館館長 稲村　修氏

1957年、富山県入善町出身。東海大学海洋学部水産学科卒業。1980年から魚津水族館に勤務。2007年からは北海道大学大学院環境科学院で学ぶ。博士(環境科学)。2011年から魚津水族館館長。専門は、魚類学、環境科学。

挨拶

15th World Congress in TOYAMA
The Most Beautiful Bays in the World
October 16-20, 2019

開会挨拶　富山県知事 石井 隆一

世界各国からクラブ加盟湾の皆様や多くの県民の皆様をお迎えし、湾クラブ加盟5周年記念行事をこのように盛大に開催できますことは、誠に喜ばしく、心から感謝申しあげます。

今回の世界総会では、湾クラブのこれまでの活動を振り返り、今後のビジョンについて議論を重ね、クラブ加盟湾が観光と持続的発展の両立を目指し結束して行動することなどを盛り込んだ「富山宣言」が採択されたところであります。

富山の名を冠した宣言が採択されたことは、これまで富山湾の自然環境の保全や活用に積極的に取り組んできた本県にとって非常に有意義なことであります。これを契機として、今後も豊かで美しい富山湾の世界的なブランド価値が高まり、さらなる観光振興・地域活性化に繋がるよう、全力で取り組んでまいりたいと思います。

本日は、富山湾のクラブ加盟５周年を記念し、環日本海における環境保全の中核としてご活躍されている公益財団法人環日本海環境協力センター鈴木理事長にご講演いただくとともに、世界50カ国以上を冒険し、数々の巨大淡水魚を釣りあげてきた、高岡市出身の「怪魚ハンター」小塚卓矢さんと魚津水族館の名物館長・稲村修さんによる楽しいトークショーを予定しております。

ご参加の皆様には、本日の記念行事を契機に、改めて「世界で最も美しい富山湾」の魅力や海洋環境保全の重要性について、一層理解を深めていただければ幸いです。

祝辞　世界で最も美しい湾クラブ理事長 ミッシェル・ブジョルド氏

富山湾が世界で最も美しい湾クラブに加盟してから５年という節目の年に、再び富山県を訪問することができ、大変嬉しく思っております。

５年前、初めて富山を訪問した際、路上の雪を温水で溶かす仕組みを見て不思議に思ったことを覚えています。また、「真の和食」ともいえる本物の鮨も初めて味わいました。初の富山訪問は驚きと新しい発見にあふれ、地元の方々の温かい歓迎と優しさにも深く感動しました。

富山湾は雪を頂いた山脈とターコイズブルーの海の間に位置する、まさに宝石であり、青白い光がきらめくホタルイカなどユニークな動植物が生息しています。

時を経て振り返ってみると、富山湾の加盟は、いかに名案だったかということに改めて気づくことができます。５年前からクラブの旗を高く掲げ、誇りをもってクラブに貢献していただいている富山県の皆様に深く感謝を申しあげます。

５周年、誠におめでとうございます。

記念講演

15th World Congress in TOYAMA
The Most Beautiful Bays in the World
October 16-20, 2019

公益財団法人 環日本海環境協力センター（NPEC）理事長
鈴木 基之氏

テーマ　美しい海に向けて ～プラスチックと窒素の管理を

海が私たちに提供してくれているサービス。一つめは魚や海藻といった食料、工業材料や薬用資源などの供給。二つめは海面における蒸発やCO_2の吸収などによる地球環境・気候の調整。三つめは大切な生き物の生息・生育環境の提供、そして四つめは人が海に接することで感じる豊かさ、スポーツ・余暇・観光の機会を与えてくれる精神的・文化的場を与えてくれることです。この4つのサービスが持続可能で、住民の方々と共に質が高く保たれていること。これが、私たちの考える「美しい海」です。

富山県は、標高3,000mの立山連峰から水深1,000mを超える富山湾まで、約50kmの間に4,000mの高低差があります。山には雪や氷として水を保持する仕組みがあり、中傾斜の部分では森林帯などで水分を貯え、急な流出を防いでいる。豊富な地下水、急傾斜を流れる河川が海に流れ込んで生態系を作り出し、周辺地域の活動と密着して、特徴的な地域を作り上げています。それが、富山湾の非常にユニークなところです。

世界に目を向けると、ここ50年で総人口は2.4倍になり、経済活動は名目50倍近く増えています。これだけの人口を養うために窒素肥料の生産が増え、「快適な暮らし」を求めて、プラスチック生産も年々増えてきました。窒素は海の富栄養化につながり、プラスチックごみも海中の生態系を脅かしています。

そこで富山県では1997年にNPEC（環日本海環境協力センター）を設立し、日本海を取り囲む中・韓・露各国と沿岸自治体との連携協力のもと、海域保全ネットワークの形成、海洋環境調査研究、普及啓発・環境教育などに取り組み、プラスチックをはじめとした海岸漂着物調査やリモートセンシングによる富栄養化のモニタリングなどを進めています。漂着物調査は20年以上続いており、参加人数は大人も子どもも含めて4万人近くにのぼります。ユニークな試みとして子どもたちや大学生が、漂着物のアート作品を作り、海洋ごみに対する認識を高めています。モニタリングでは、人工衛星でとらえたデータを使い、窒素（栄養塩）の増加により増殖する植物プランクトンを観測することにより、富山湾の沿岸管理を進めています。

講演の様子

また、プラスチックについては「使い捨て」をやめるということで、富山県では全国に先駆けて2008年からレジ袋を有料化されたわけですが、こういった取組みを広めていくことで、海の汚濁、ごみの発生抑制に繋げていくことが重要になります。窒素については、環境中での健全な循環達成は非常に難しい課題なのですが、富山地域においては陸上農地、山間部でしっかり窒素の利用を管理し、アマモなど沿岸部の藻類の適正な管理に繋げていくことが望まれます。

熱心に聞き入る参加者

大切なのは、海あるいは沿岸と周辺環境など全体構造をしっかりと理解し、私たち、人間の活動をコントロールすることです。人間活動の圧力が海に及んでいる限り、将来の持続可能な美しい海は期待できません。ぜひ、かけがえのない富山湾を美しいまま次世代に残していただきたいと願っています。

記念対談（トークショー）

15th World Congress in TOYAMA
The Most Beautiful Bays in the World
October 16-20, 2019

怪魚ハンター 小塚 拓矢氏・魚津水族館 館長 稲村　修氏

怪魚ハンター 小塚氏

魚津水族館 稲村館長

テーマ　怪魚ハンター小塚が語る！ リュウグウノツカイ&ダイオウイカは釣れるのか？

「怪魚ハンター」として注目を集めている小塚さん。自己紹介を兼ねて富山湾で釣りをしている様子をVTRで上映し、瞬時に参加者の心をつかみました。次いで、魚津水族館の稲村館長が深海巨大生物の2大スターであるダイオウイカとリュウグウノツカイを生物学的な視点で解説。対談は「さあ小塚くん、どうやって釣る？」という問いかけでスタートしました。

小塚　ダイオウイカは、小笠原や沖縄など元々の生息地に行けば10日間ぐらいあれば釣れるんじゃないかな。ただ、彼らが生息する800mほどの深海は富山湾だと寒すぎるので、なかなか難しいかなと思います。一方、リュウグウノツカイは富山湾でも釣れる可能性があると思います。

ただ問題は、深海魚特有の構造で口が柔らかい。イメージはこんにゃくです。過去に発見された4mのリュウグウノツカイは、推定20kg弱。それを200mの深海からどうやって引き上げるか。うまく針がかかったとしても口がこんにゃくですからね。そこがネックになってくるのです。

稲村　日中は200mぐらいですが、夕方から50mぐらいまで上がってきていると思うので、そのあたりで狙えないですかね。柔らかい口ではなく固い皮の部分に引っかかってくれれば上がってくるかもしれない。飼育できている水族館はないので、元気なリュウグウノツカイを釣ってもらってぜひ展示したいですね。

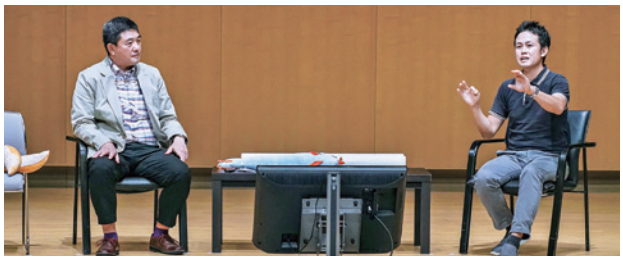
さて、ダイオウイカは小笠原の方が釣りやすいということでしたが、富山湾でエサとなるソデイカを釣って、それでダイオウイカを釣るというプロジェクトはどうでしょう？

小塚　富山湾は最小のホタルイカから最大のダイオウイカまで棲んでいる海ですからね。実は1cmぐらいのルアーでホタルイカ釣りに挑戦したことがあるんです。結果は海老江の浜で藁にもすがる思いで抱きついてきたのが1匹だけいました。だから富山湾でダイオウイカを釣ろうと思えば、藁をも掴む状況になっている奴の目の前にエサをピョイと投げると抱き着いてくる可能性は大いにあると思います。実際、湾の中に入ってきたダイオウイカが水中のダイバーに抱きついてきたという事例もあるので、釣り糸と釣り針で捕獲して展示できたら面白いですね。

稲村　地球温暖化の影響という考えもありますが、富山湾沿岸にダイオウイカやリュウグウノツカイが現れるというのは、世界の環境の変化を富山湾で見ていることになります。皆さんもぜひ情報をいただきたい。私たちはそれを記録し、この変化が地球温暖化とどう関連があるかを明らかにして、富山から発信したいと考えています。

小塚　僕は「釣り糸は自然の声を聞く糸電話」だと思っています。海の変化、環境の変化に気づくのが釣り人だと思うので、釣りを続けていくことで何か寄与できたらいいかなと思っています。皆さんも富山湾で美味しい魚を釣って、珍しいものがいたら稲村さんに連絡してくださいということでいいですか。

稲村　はい。ありがとうございます。


稲村館長(左)と小塚氏(右)による記念対談

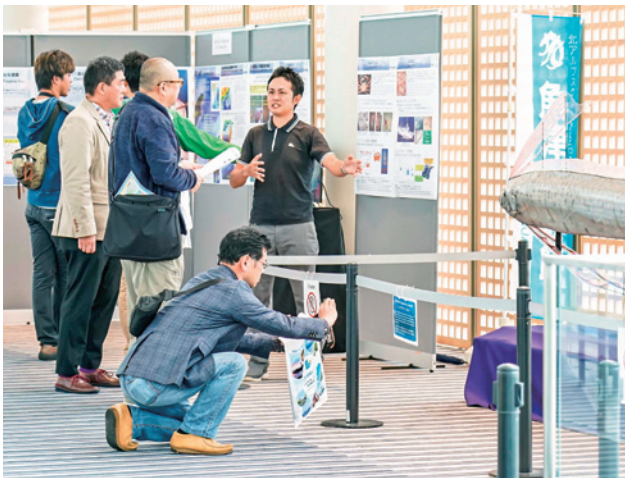
小塚氏はユニークな活動ぶりを映像で紹介

展示

15th World Congress in TOYAMA
The Most Beautiful Bays in the World
October 16-20, 2019

会場前のホワイエでは、加盟湾や富山県等の22の団体がそれぞれの取組みを紹介するパネル展示を行いました。

リュウグウノツカイの剥製（記念対談の小塚氏と稲村館長）


来場者に説明する小塚氏

美しい富山湾クラブのPR

パネル展示の様子

興味津々の来場者